高瀬神社 社報

越中一宮

令和元年5月13日 植樹祭

第62号

越中一宮 高瀬神社

令和元年７月１日
https://www.takase.or.jp/ 撮影：南部スタジオ

「新しい御代を迎えて」

宮司　藤井秀嗣

四月一日に新元号「令和」が発表され、五月一日の天皇陛下御即位から正式に新しい御代が始まりました。来る十月には即位礼正殿の儀、十一月には大嘗祭が斎行されます。国民あげてお祝い申し上げ、天皇皇后両陛下をはじめ皇室の弥栄をお祈り申し上げる次第であります。

令和となって二か月が過ぎ、新元号も生活の中に少しずつ馴染んで、世間も落ち着きを取り戻してきているように感じます。践祚の日の五月一日、全国の社寺では「御朱印」を受ける参拝者で長い列ができ、御社頭はお正月のように混雑しました。有名大社では八時間待ちだったと聞いています。ある程度の混雑は予測していたものの想像を超える事態となったそうです。最近は動物園やテーマパーク、レストランなど、並んで待つ事が当たり前になったことにより、あまり苦にならないようですが、さすがに何時間も待つという苦行は私には耐えられないかもしれません。

現在は「御朱印ブーム」と言われています。書店でもお土産屋でも「御朱印帳」を扱っています。みんなやっているので、とりあえず自分もやってみようと、ブームに乗るということは往々にしてあることです。日本人は特に「みんな一緒でないとダメ」という感覚が強いように思います。良いところでもあり、悪いところでもありますが、単なるブームに乗るのではなく、社寺を巡り、信仰を深めることを目的に始めていただきたいものです。

当神社では数時間待ちの列こそ出来なかったものの、神職四人で相当数の御朱印帳に墨書させていただきました。一冊ごとに心を籠めて書き、多少の待ち時間はありましたが、大した苦情の声は聴かれず、日本人の信仰心や寛容さを称賛していた矢先、インターネットのニュースで、五月一日に有名大社で受けた御朱印がネットオークションに出品されたと報じられました。それも高額な値段で。何時間も待って押していただいたはずの御朱印をなぜ売るのか？長時間立ち尽くしていたのは信仰心からではなく、お金儲けのためだったのか…。とても残念な気持ちになりました。売るほうも売るほうですが、買うほうも買うほうです。自分がお参りしていないのに、その御朱印を求めて何になるのでしょう。お参りして感謝の心を捧げ、更なる御加護を願ったその証としていただく御朱印。その趣旨を考えると、全く意味のない罰当たりな行為だと思います。

信仰とは、神様仏様を信じ、尊ぶことであり、日本人固有の神観念によって神社神道という信仰が興りました。それは日本の風土や社会事情に応じて様々な習俗や思想を形成して、私たちの日々の生活に大きく影響を及ぼしています。物事の善悪を判断する道徳意識もそこから少なからず影響を受けています。

御朱印を売買するという行為は、信仰ではなく商売です。拝金主義とでもいうのか、儲かるか儲からないかが物事の判断の基準になっています。日本人の信仰心や道徳心はどこへいってしまったのだろうと心配になってきます。信仰心の衰退は宗教を教えない現在の教育に問題があると思いますが、それはそれとして、今回の御朱印のことについては、神社側も謙虚に捉えて、参拝者が増えた、御朱印料がたくさん入ったと喜んでいないで、御朱印の授与をきっかけにして、本来の信仰をもっと深めてもらう対策を考え、実践しなければならないと思います。神社側の消極的な態度が、不敬な参拝者を生んでいるのではないかと心配になります。

冒頭に書いた通り、天皇陛下の新しい御代に執り行われる御大礼を国民こぞってお祝い申し上げるためにも氏子崇敬者の皆さんと手を携え、神社としての役目を果たして、日本伝統の心性が損なわれないように努力したいと思います。そして、新元号「令和」の「和して麗しく」という趣旨に沿った御代になるよう、日々の勤めを重ねて参りたく存じます。

奉祝　天皇陛下御即位　御代替り神事

昭和祭 並びに 御譲位御安泰祈願祭

御代替りも間近に控えた平成三十一年四月二十九日午前九時、恒例の昭和祭とあわせて、御譲位御安泰祈願祭を斎行しました。祭典では、宮司祝詞奏上の後、巫女による神楽「剣の舞」を奉奏し、昭和天皇の御遺徳を偲ぶと共に、如何なる事態に苛まれようとも、常に国民とともに歩まれ、御心をお寄せ下さいました先帝陛下へ感謝の意を表するとともに、御代替りの安泰を祈念しました。

践祚改元奉告祭

令和元年五月一日午前十時、践祚改元奉告祭を斎行しました。践祚とは、皇位を践むという意味で、天皇が皇位につかれることを指します。祭典では、この御代替りを奉祝し、「浦安の舞」を奉奏。皇室の弥栄と国家の安寧と繁栄を祈念し、参列者とともに、天皇陛下の御即位を奉祝しました。

植樹祭

五月十三日午前十時、天皇陛下の御即位を奉祝するとともに、国土の緑化並びに環境改善を祈念し、植樹祭を斎行しました。

祭典には、石岡敬夫責任役員、藤井義雄相談役、中嶋治長高瀬区長が参列し、本殿での祭典後、境内に左記の樹種の植樹を行いました。

○樹　種

・梓（ミズメ）天皇陛下お印

・優良無花粉スギ「立山 森の輝き」

・越の彼岸桜

・越の冬桜

右樹種は平成二十九年五月に富山県魚津市で開催された第六十八回植樹祭に於いて上皇上皇后両陛下が植樹された樹木です。いずれも富山県発祥。

・オガタマノキ

・サイカチ

神道と係わりの深い樹種もあわせて植樹しました。

令和最初の神前結婚式

五月一日正午、令和改元後、最初の神前結婚式を行いました。この度、めでたく結ばれたのは、氏子の冨賀見将一郎さんと霞さん。大安で始まった令和の御代に相応しく、親戚ら参列者に祝福され、新たな門出となりました。最初の結婚式ということで、報道機関の取材も多数あり、冨賀見さんにもインタビューにお答え頂きました。

令和のお参り

同じく令和最初の日となった五月一日、境内は参拝者で賑いました。

天皇陛下御即位に伴い、奉祝ムード一色の雰囲気のなか、新しい御代への期待に胸を膨らませた参拝の方々は、新時代の平安と繁栄を祈念されていました。

藤井秀弘名誉宮司に「長老」の称号

去る五月二十二日、明治記念館において神社界の興隆に寄与した人物を表彰する神社本庁表彰式が行われ、当神社の藤井秀弘名誉宮司が神社本庁「長老」の称号とともに、鷹司統理・田中総長より功績状と鳩杖を拝受しました。長老は、前号にも記した通り「徳望衆に秀で人格見識共に勝れ多年奉仕神社の運営と神徳の発揚に力をいたし老齢に達する迄神社界の先覚として終始一貫斯道の為に貢献し功績抜群なる者」に対し贈られる称号です。現在、全国に十三名の長老がおられます。

【鳩杖について】

鳩杖には、頭飾りの部分に鳩が用いられています。この由縁は、鳩がむせない鳥とされることにあやかって、老人がむせないようにとの意から、鳩飾り付いた箸を下賜された故事によると言われています。また、鳩は、礼を重んじ、孝養を尽くすことの例えから、深い敬老の念を表しているとされます。杖を賜るという慣わしは、古く中国の周の時代に起源があり、我国では、奈良時代、『続日本紀』に時の左大臣が帝より霊寿杖を賜った記録が残っています。以後、現在までこの慣わしは、連綿と受け継がれてきています。

鳩杖贈り状

功績状

鳩杖

金婚祭

四月八日午前十時より、恒例の「金婚祭」を斎行しました。祭典前には、高瀬地区老人クラブ連合会（土田周六会長）会員による、境内清掃が行われました。

本年は五組の方々が金婚を迎えられ、清掃後の金婚祭にて巫女による浪速神楽「吾妻」が奉奏され、会員の健康長寿を祈念しました。祭典後、参集殿にて宮司の「御代替り」を主題とした講話を開きました。

金婚者

南砺市高瀬・北市

石岡　敬夫　千佳子　ご夫妻（千歳会）

山田　公輝　さちよ　ご夫妻（千歳会）

寺西　友則　紀代美　ご夫妻（千歳会）

橋場　哲也　美智子　ご夫妻（静寿会）

豊川　市雄　和美　ご夫妻（大宮司）

春季祭並びに天皇皇后両陛下（現上皇上皇后両陛下）御結婚六十年祭（大祭）

四月十日午前十時より、恒例の「春季祭」にあわせて「天皇皇后両陛下御結婚六十年祭」を斎行しました。氏子崇敬者参列のもと、今年一年の平安と豊作を祈念するとともに、御結婚六十年の佳節を奉祝しました。祭典では、神楽「浦安の舞」が奉奏され、奉仕員・参列者全員で「越中一宮 高瀬神社奉賛歌」を奉唱しました。また、祭典後、篤志奉納者感謝状授与式を執り行いました。

【篤志奉納者】

作品「稜線」「さざ波」「薫風」「躍進」「やすらぎ」奉納
南部　進　殿

奉納「干支の木彫彫刻」
川原　和夫　殿

「境内樹木の管理生育並びに苗木の奉納」
朝倉　一男　殿

奉納「未来」（辻 志郎作）
※第三四回日展文部科学大臣賞受賞
辻　和志　殿

八乙女山風神堂例祭

六月二日午前十一時、八乙女山風神堂例祭を行いました。風神堂は、強風「井波風」が吹き出すという「風穴」の傍に祀られています。「井波風」は、春の訪れを知らせる反面、古来より被害をもたらしてきました。

本年より、鳳鳴クラブ（地元高瀬の雅楽団体）より三名が伶人として加わり、祭典において奏楽。当日、風神堂までの道のりを徒歩で登られた崇敬者約百名が参列しました。

御神山「牛嶽」開山祭

六月六日午前十時より、山頂に鎮座する牛嶽社で「例祭」並びに「開山祭」を行いました。遠く立山まで見通せる快晴の下、砺波・富山両市の奉賛会会員や砺波登高会、両市の関係者約百人が参列し、今年一年の山の平安と入山者の安全を祈願しました。

※牛嶽社は標高九八七メートルに鎮座し、当神社の奥宮と称され、牛に乗った「大国主命像」が祀られている。

献花祭

六月八日午後四時より、「第四十五回高瀬遺跡菖蒲まつり」に先立ち、献花祭を行いました。祭典では、花菖蒲が神前に供えられ、高瀬遺跡菖蒲まつり実行委員長　久田久伸氏・高瀬青友会長　藤井崇教氏が玉串拝礼を行いました。

北日本となみ野茶会

四月七日、北日本となみ野茶会が開催され、三百三十名の愛好家にお越しいただきました。

当日は、表千家　埴山宗文さんが席主を務められ、多くの人々が春の訪れとともに心づくしの一服を味わわれていました。また、四月に公表された元号「令和」の出典、『万葉集』にちなんだカタクリが生けられました。

祈年穀祭（大祭）

六月十日午前十時より稲をはじめ農作物が虫害の影響なく豊作になるよう祈念する祈年穀祭を斎行しました。

祈年穀祭の起源は、飛鳥時代、深刻な病虫害が発生し、この事態を重く見られた天武天皇は、勅使を遣わされ、病虫害の収束と豊作を祈願されました。この事が祈年穀祭の始まりとされています。

祭典では、古式に則り御神火を灯し、宮司祝詞奏上に続き、砺波地区農業協同組合協議会からの幣帛が供えられ、参向使の福光農業協同組合代表理事組合長 齊藤 勇一氏による祭文が奏上されました。

例年、社標前に、奉仕員・参列者全員が整列し、灯されたかがり火に拝礼し、本年の五穀豊穣を祈願しておりますが、当日は、雨天の為拝殿前にて執り行いました。

神輿巡行渡御行程

六月十一日には、神輿と御神火が砺波地区の各農業協同組合を巡行しました。各農協では組合長以下職員参列のもと、本年の五穀豊穣を祈念しました。

なんと農業協同組合

いなば農業協同組合

福光農業協同組合

となみ野農業協同組合

献穀田だより
「御田植祭」斎行

奉耕者　寺西雅典氏
井波地域中核農業士協議会（岩﨑 修 会長）

天候に恵まれた五月十九日午後二時、献穀田で「御田植祭」が斎行されました。

大勢の関係者が見守る中、早乙女姿の女子中学生五名が、氏子であり、本年度奉耕者の寺西雅典氏より「コシヒカリ」の苗を受け取り、心を込め丁寧に植えました。

九月中旬には「抜穂祭」を行い、収穫した稲は「懸税（かけちから）」として伊勢の神宮に奉納されます。また、当神社の祭典に使用する神饌米として奉納される予定です。

早乙女奉仕者

齊藤　深秋さん
西野名津子さん
大谷　愛梨さん
齊藤　柊香さん
石橋　歩佳さん

大輪あさがお展

日時　八月十日（土）～八月十二日（月・祝）
主催　南砺市あさがお会（森田光正会長）

本年も、お盆前の三日間に亙り、境内において「大輪あさがお展」を開催します。大輪朝顔は、花径の大きな朝顔で、明治以降栽培が盛んになり、現在でも広く愛されている園芸植物です。

会員の方々が丹精を込めて成育された色とりどりの朝顔が境内を彩りますので、是非ご覧下さい。

小島功展

～現代の浮世絵師と呼ばれた男～

日時 八月十日(土)～八月十八日(日)〈観覧無料〉 午前十時～午後五時まで

この度、小島功生誕九十年の記念事業として、当神社において「小島功展～現代の浮世絵師と呼ばれた男～」を開催致します。美酒、美味、美女に愛された作家 小島 功。

流麗で、やさしくて、時には力強く描かれる線。創り出される世界は果てしなく艶やかで美しく、半世紀以上にわたり生みだされた作品群は、どれも圧倒的なエネルギーに満ち溢れています。

今回の展覧会では、小島功全盛期時代の作品を原画、木版画、ジークレー版画を含めて展示販売致します。

～展覧会にあたり～

古来より神社という空間は、地域の人々が集うコミュニティとして存在しております。故小島功氏は、漫画というジャンルで多くの作品を生みだし皆様に親しまれて参りました。平成三十年は生誕九十年という節目の年にあたります。この展覧会はその記念事業の一環としまして全国の神社を巡回する企画個展です。生前、本当に多くの方々に作品を楽しんで頂きました。

展覧会は観覧無料としております、今まで描きためてきた作品をより身近に、より多くの方々に、地域の人々が集うお社でお楽しみ頂ければ幸いです。

「ひげとボイン」

「洗い髪」

小島 功〈こじま こお〉～漫画家～ 略 歴

昭和三年　東京都台東区生まれ
浅草で育ち、幼少の頃から漫画を描き始める。終戦直後に「新夕刊」に漫画の投稿を始め、各出版社で連載を始める。
昭和二十二年　長新太、八島一夫、関根義人、馬場辰夫、金子泰三、中島弘二らとともに「独立漫画派」を結成。
昭和三十九年　「日本漫画家協会」設立。
昭和四十年　大橋巨泉、朝丘雪路司会のテレビ番組「11PM」にレギュラー出演。十八年間、独特のキャラクターとして親しまれる。
昭和四十三年　「日本のかあちゃん」と「7－8＝1」で第十四回文藝春秋漫画賞受賞。
昭和四十八年　加藤芳郎と漫画雑誌「ユーモリスト」を発刊。画全盛時代に対抗して、ナンセンス漫画家たちの同人誌を立ち上げる。
昭和四十九年　清水 崑氏より「女河童」を引き継ぐ。黄桜CMキャラクターとして一世を風靡した。
昭和五十五年　「朝日新聞」に政治漫画を連載開始。
昭和五十九年　画業三十五年展開催
平成二年　紫綬褒章受章
平成四年　日本漫画家協会理事長に就任。
平成二十六年に公益社団法人となる。
平成十二年　勲四等旭日小綬賞受賞
平成十六年　画業六十年展「小島功美女と遊ぶ」を開催
平成二十三年　漫画家協会名誉会長就任
平成二十七年　享年八十七歳 上野寛永寺に眠る。

「仙女龍遊図」

観月祭のご案内

〈日時〉九月十五日（日）

観月祭　午後五時斎行
奉納行事　午後六時開始

〈入場無料〉

一年のうちで月が最も鮮やかに見える旧暦の八月十五日（新暦九月十五日）は「十五夜」、または「中秋の名月」といわれ、「お月見」に最適な日とされています。高瀬神社では来る九月十五日（日）午後五時から月を愛で、収穫に感謝する「観月祭」を斎行し、その後、午後六時から奉納行事を行います。

今年は、天皇陛下御即位を奉祝して、出雲の伝統芸能「大土地神楽」が奉納されます。

名月の下で高瀬の大神様とともに奉納行事をご覧になり、更なる御加護をいただかれてはいかがでしょうか。本殿左側の入口からお入りになり、ご参列ください。

なお、参集殿テラスではご神酒・月見団子・湯茶を用意しております（祭儀終了後、お配りします）。

奉納演目

一、悪切（大土地荒神社の例大祭で、最初に座を清める前に悪を祓うもの）
一、茅ノ輪（茅の輪神事にちなんだもので、観衆を楽しませる要素を取り入れたもの）

名　称　大土地神楽（国指定重要無形民俗文化財）
保持者　大土地神楽保存会神楽方
会　長　桐山和弘
会員数　三十一名

大土地神楽は、古くは大土地荒神社神主によって舞われていましたが、宝暦年間（一七六〇年前後）には既に素人神楽が舞われ、以後三百年以上途絶えることなく、民衆によって受け継がれてきました。

その舞い振りや奏楽は、大土地荒神社例祭で昔ながらの形で受け継がれており、出雲大社の門前町として、盛んだった芝居興行の影響もあってか、とかく観衆を意識し、楽しまれる所作・演出が随所に見受けられます。現在では、同社例祭・出雲大社例祭への奉納神楽のみならず、県内外でも広く公演されています。

越中一宮 髙瀬神社
御社殿屋根修復 銅板ご奉納のお願い

御社殿屋根修復「銅板」ご奉納のお願い

大正十二年（一九二三年）、髙瀬神社は氏子崇敬者各位の並々ならぬ熱誠をもって、国幣社に昇格しました。現在、この社格は無くなりましたが、当時、国幣社となることは大変名誉なことでした。来る令和五年（二〇二三年）には昇格百年の節目の年を迎えます。

昇格後、国幣社に相応しい御社殿にすべく、関係者挙げて新社殿建設に取り組み、念願叶って昭和十七年より国の主導による御造営工事が始まりました。基礎工事が終了した昭和二十年八月に終戦となり、国費による工事が中止されました。往古の面影は消滅した状況でしたが、各方面より浄財や樹齢数百年の銘木が寄進され、昭和二十二年に御本殿が、翌二十三年に拝殿が完成し、現在に至っております。

昭和四十八年に檜皮葺屋根から銅板に葺き替えられて五十年が経過した今日、御本殿を始めとする御社殿の屋根は酸性雨による腐食や経年による傷みが進んでおり、早々に葺き替え工事を行わなければならない事態となっております。これまでの例にならい、再び各位の誠心籠もるご奉賛をいただき、この事業を完成させたく存じます。今後、「葺き替え用銅板」の数が揃い次第、順次葺き替え工事に取りかかる予定です。

つきましては、本事業の趣旨をご理解いただきまして、どうぞ「葺き替え用銅板」のご奉納にご協力下さいますようお願い申し上げます。

越中一宮髙瀬神社 宮司　藤井 秀嗣

御社殿屋根修復 銅板ご奉納のお願い

高瀬神社は令和五年（二〇二三年）の完成を目指し、劣化損傷の著しい本殿をはじめ御社殿全体、功霊殿拝殿屋根の銅板葺替工事を行います。ご参拝の記念として葺き替え用の銅板奉納にご協力下さいますようお願い申し上げます。

▼奉納金額 一枚二千円

※銅板には皆様のお名前や、お願い事をご記入いただけます。

銅板記入例

▼記念品「奉賛之章・心魂」

楠の木で作った「心魂」をご奉賛の証として授与致します。

奉賛之章「心魂」

《事業概要》

一、御社殿屋根銅板葺き替え
付属飾り金具改修工事
「本殿、幣殿、拝殿、
回廊、功霊殿拝殿」

《日　程》

一、銅板ご奉納実施期間…平成三十年より三ヶ年
二、銅板屋根改修工事……令和五年 春 着工
令和五年 秋 竣功予定

※平成三十一年より工事資金の募金を実施する予定です。

五十年を経て、劣化損傷の著しい銅板葺屋根

御社殿屋根修復

敬称略

ご奉賛頂きました皆様に厚く御礼申しあげます。

特別奉賛金奉納者

（平成三十一年四月一日～令和元年五月三十一日）

【百万円】
藤井　秀弘

【五十万円】
藤井　典弘

【三十万円】
大和　秀夫
㈲森田電気商会
田邉　良三
石川　憲明

【二十万円】
庄川土石工業㈱
長森　浩一

【十万円】
㈲西林石油店
中嶋　一男
グルメどころタベタリーテ
傍田　文二
田邉　将伯
岩倉　清孝
石岡　洋介
岩倉　節三
中嶋幸之丞
冨賀見板金
開　敏子
豊川　市雄

【八万円】
岩倉　孫寛
傍田　昭治

【七万円】
川嶋　雄司
小西　八郎

【六万円】
井波松風会

【五万円】
島田　輝子
田島　昇
㈲川田製畳所
河内屋菓子舗
福井　久子
田邉那智子
豊川　浪子
岩倉　邦子
中村屋 中村彰宏
齊藤　和夫
岩倉　勲
石岡　政清
石岡貴代夫
石岡裕見子
開　京子
池田　市郎
豊川　憲明
豊川　和美
田中　武

【三万円】
柴田　敏子
岩倉　昭夫
中田トシ子

【二万円】
久田　久伸
金澤　秀樹
中田由紀子
浦田　行雄
川原　久俊
㈱三五八あかつき

【五千円】
下手　誠
小塚　久雄
藤田　尚正
小橋外喜雄
中畑　友継
森田　正
森田　稀美
中畑　公央
中畑恵里子
中畑　道廣
斉藤　勝
小西須美江
田口　勝巳
荒木　律子
大国商会㈱
式部　左近
黒谷　徹
西田真由理
豊川　嵩
宮島　富子
脇本　千春

銅版奉納者

（平成三十一年一月一日～令和元年五月三十一日）

水木　淳郎
五味　真二
香川　滉季
舟崎富美枝
谷川　睦子
谷野　洋久
比呂美
吉野　淳一
栄子
福江　靖夫
笹島　幸治
山田啓太郎
上田　哲夫
山崎　文雄
松井　准郎
貴美子
餃子のまーちゃん
前田　松乃
渡辺　外好
㈱オミゴウキン
淤見　光延
奥山　崇仁
中井　雅樹
鳴海久美子
平野　正樹
永田　節子
早川　智祥
大澤　茂雄
大家　正彦
金谷　勝治
森田　聡司
吉田　優
㈱　寿　屋
山田　省子
長江　幸次
川端　雅申
中田　浩人
中村　栄一
金岡さゆり
竹原　司
松平　宏
橋場　一郎
松木　信拡
柴田　昌美
石岡　和明
稲田　雅文
㈱合掌の物語りん
小泉　由和
龍田　和栄
貳枚田　章
牧野　由美
中山　安治
高岡　和博
井上　良誠
江田　等
高野久美子
城石　悦子
油屋　透
長森　勉
岩倉　明美
大和　泰子
大野　茂
中川　明
南部　常次
南部　進
山田　省子
大聖寺　弘
青山裕響子
中川　美里
三室　研
井波松風会
藤井　崇教
吉山　雄貴
高正　智
熊谷　卓大
冨田　幹夫
山田　省子
上野　尚子
浦田　行雄
浦田　晴美
一行
結衣
坂田美也子
森田　律
篠山　徹
村上　太陽
山田　省子
藤田　尚正
尚一
宮川　徹
㈱ミナモトビジョン
北陸支店
岩木　博美
長柄美恵子
山崎　哲雄
高市　宏夫
石倉　雅子
川田　省三
浮階　達也
尚子
秋野　昌隆
大島美智子
大島　希央
藤原真粧美
HEART合同会社
西道　宏
珠代
加藤　成光
宮島　由浩
古瀬　信子
㈲石坂善商店
石坂　義基
泉　隆志
森本　陽子
大西　昌代
大西　正記
川島　力
宗井　芳明
宗井由栄子
岩倉　勲
友子
隆弘
由佳子
拓希
荒川　哲夫
吉沢　勝博
堅田　毅
澤田　孝治
長澤　和美
宮本　隆之
大浦　昌樹
北野　勝規
大矢　外男
坂田　早苗
坂田　綾子
小西須美江
田中　禮子
水谷　昭雄
谷村　慶一
山崎　巌
田口　勝巳
田口　幹人
田口　好美
小林　善政
永井さつき
篠山　徹
佐々木智秋
山本　治美
齋藤　博
外舘　勝義
草山　真琴
福田　達也
南防水工業㈱
穴田　貴士
伊藤佳津美
山田　省子
田中花恩里
加藤　昭雄
小泉　克之
丹内　毅
伊東　幸一
加藤ますみ
鳩澤　吉彦
宮本　守雄
好美
追分　秀松
能登　圭吾
青江みゆき

※奉賛金・銅板奉納は随時受付ておりますので、ご奉納をお願い致します。

高瀬神社注連縄奉納講のご案内

注連縄奉納奉告祭

日時　十二月二十日（金）午前十一時

「注連縄奉納講」は、大神様の御神徳に感謝し、年末に注連縄のかけ替えを行っています。注連縄は、稲わらを用い、奉賛者の願い事を記した用紙を一緒に編みこんで大神様の更なる御加護が戴けるよう祈念して奉納します。

◆一口　一万円

◆締切
令和元年十月三十日

◆奉賛者名、願意を記入した用紙を注連縄に編込んで、成就を願います。奉納者名は向拝に掲示します。

◆申し込み方法
申し込み用紙をご記入になり、社務所へお申し込み下さい。
※申し込み用紙については社務所へお問い合わせ下さい。

奉献

ご案内

歯固め石（はがたいし）

当神社では、お食い初めの石「歯固め石」を授与しております。ご希望の方は社務所へお声がけ下さい。

戌の日（安産祈願）

7月12・24日
8月 5・17・29日
9月10・22日
10月 4・16・28日
11月 9・21日
12月 3・15・27日

腹帯のお祓いも行いますのでご持参下さい。

奉納

○「参道玉砂利」
富山市八人町
株式会社　岡部
代表取締役
穂積 欣治 殿

○「参道玉砂利舗設」
南砺市坪野
株式会社　藤井組
代表取締役社長
藤井 秀之 殿

○「境内剪定作業」
「コシノフユザクラ」
小矢部市津沢
株式会社 越路ガーデン
代表取締役社長
西尾 倫顕 殿

※毎年恒例の奉仕作業ですが、本年も爽やかな境内にして頂きました。また植樹祭においても樹種の一本を御奉納頂きました。

辞令

山下　翔子
願いにより巫女を免ずる
令和元年六月三十日

各種お問い合わせにつきましては、社務所へご連絡下さい。
（〇七六三）八二一〇九三二

社報バックナンバー
当神社ホームページでご覧頂けます。

【表紙写真】
天皇陛下御即位奉祝行事
植樹祭

発行日　令和元年七月一日
発行所　越中一宮　高瀬神社社務所
〒九三二-〇二五二
富山県南砺市高瀬二九一
TEL(〇七六三)八二-〇九三二
FAX(〇七六三)八二-三二〇四
編集人　魚岸　一弥
印刷所　牧印刷株式会社

越中一宮 高瀬神社 ブライダル

縁結びの神様に誓う
伝統の結婚式を挙げていただく、
一生に一度の日だからこそ、
一日一組のカップルの為だけに、
このバンケットは生まれました。

一日一組限定の

おもてなしバンケットホール

只今
来春の婚礼
ご予約
受付中

このバンケットホールでのご結婚披露宴のご予約を承っております。
お気軽にお問い合わせ、ご相談いただきますよう、お待ち申し上げます。

縁結びの神様のもとで幸せのお手伝いをしてみませんか

やさしいあなたの力を必要としています

土・日・祝日の空いた曜日だけ! 事前にシフトを決めて働きましょう!!
未経験者歓迎! 丁寧に教えます!

仕事内容	結婚式・披露宴でのサービス業をご担当いただきます
勤務時間	土・日・祝日／9:00～18:00の間（披露宴時間による）
勤務地	南砺市高瀬291　高瀬神社内
給与	時給1,000円以上　研修30ｈは時給900円
待遇	制服貸与　食事手当500円

月単位のシフト制なのであなたの都合に合わせて働けます

高瀬神社　ブライダル事業部
TEL (0763) 82-1131　中井　面接随意・先ずはお電話を

あなたの人生に、神社がある。越中一宮 高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社　検索